

## VIII 進行管理（点検評価）シート

## 施策 1 確かな学力の育成

指標 1	【項目】 国語、算数・数学の授業は分かる と答えた児童生徒の割合			【説明】 全国学力・学習状況調査 質問紙調査において、 国語、算数・数学の授業は分かる と回答した児童生徒の割合				
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	78.6	-	80.3				90.0
担当課評価								
【担当課】 教育指導課 <ul style="list-style-type: none"> <li>・進ちよくは順調です。</li> <li>・学校指導訪問、学力向上に係る訪問、教職員研修を実施し、「川越市小・中学生学力向上プラン」で示す授業スタンダードの定着を図り授業改善を進めました。</li> <li>・次年度以降も、「川越市小・中学生学力向上プラン」を活用した授業改善が進むよう、継続して指導に取り組みます。</li> </ul>								
指標 2	【項目】 全国学力・学習状況調査の、全国の 正答率を上回る教科数			【説明】 全国学力・学習状況調査の、全国の正答率を上回る教 科数 小学校「国語・算数」2教科 中学校「国語・ 数学」2教科				
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	教科	1/4	-	0/4				4/4
担当課評価								
【担当課】 教育指導課 <ul style="list-style-type: none"> <li>・進ちよくは順調ではありません。</li> <li>・学校指導訪問等を実施し、「川越市小・中学生学力向上プラン」で示す授業スタンダードの定着を図るとともに、調査結果の分析を基に授業改善を進めています。正答率は、上昇傾向ではありますが、全国の正答率は上回っていません。</li> <li>・次年度以降も、「川越市小・中学生学力向上プラン」を活用した授業改善を進めるとともに、調査結果の分析を多角的に行い改善策を検討します。</li> </ul>								
指標 3	【項目】 小・中学校54校の校種間連携教育達 成状況			【説明】 連携教育の視点として示す7項目（目指す児童生徒像、教育 課程、研究組織、生徒指導、教員と児童生徒の交流、児童 と生徒の交流、教職員の交流）を達成した割合				
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	16.7	6.9	6.1				100
担当課評価								
【担当課】 学校管理課 <ul style="list-style-type: none"> <li>・進ちよくは順調ではありません。</li> <li>・コロナ禍のため、小中連携の会議や児童生徒の交流・活動が制限され、実施できなかった取組が多かったためです。</li> <li>・今後は、ICTを活用するなどして、交流や活動が積極的に実施されるよう、学校に対して情報提供を行います。</li> </ul>								
指標 4	【項目】 英語指導助手を授業中に「積極的に 活用した（する）」と回答した学校 の割合			【説明】 市立小・中学校における英語教育実施状況調査（文部科学 省）において、英語指導助手を、教員や児童生徒とのやり 取り、発音指導等で「積極的に活用した（する）」と回答 した学校の割合				
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	82.7	81.8	88.3				100
担当課評価								
【担当課】 教育センター <ul style="list-style-type: none"> <li>・進ちよくは順調です。</li> <li>・英語指導助手を授業中に「積極的に活用した（する）」と回答した学校の割合は上昇しています。</li> <li>・上記の調査の中で、項目「英語指導助手が児童生徒とのやりとりの相手をする場面」が他の項目の数値に比べて低い状況であるため、今後は、各学校への訪問や研修などの機会を捉えて、重点的に指導助言を行います。</li> </ul>								

## 施策 1 確かな学力の育成

指標5	【項目】 生徒の英語力の状況		【説明】 英語力について、中学校卒業段階でCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1レベル以上（実用英語技能能力検定3級相当以上）を達成した生徒の割合						
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)	
	%	43.3	R2 45.2	R3 46.1	R4	R5	R6	R7 70.0	
【担当課】 教育センター	担当課評価								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進ちよくは概ね順調です。</li> <li>・外国語活動・外国語科に係る研修会や、英語教育推進訪問等の機会を通して、教職員の外国語の指導力向上を図ってきましたが、中学校卒業段階でCEFRのA1レベル以上を達成した生徒の割合は微増に留まっています。</li> <li>・今後は、外国語活動・外国語科研究委員会において新たに教材・指導資料等を作成し、各学校に配布して活用を図ります。</li> </ul>								
指標6	【項目】 児童生徒の情報活用能力の状況		【説明】 「川越市情報活用能力育成系統表」の到達度を測るため、質問紙による調査を小2、小4、小6、中3の各学年末において実施する。その結果が4段階中上位2段階にあたる「肯定的」「やや肯定的」な回答となる割合						
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)	
	%	小2	-	-	72.0				100
		小4	-	-	74.4				100
		小6	-	-	77.1				100
中3		-	-	87.8				100	
【担当課】 教育指導課	担当課評価								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進ちよくは概ね順調です。</li> <li>・各学校でICT機器の取扱いに慣れる段階から徐々に使用機会の増加を図った結果、肯定的な回答が多く見られたと考えられます。</li> <li>・今後は、ICT機器の効果的な活用併せ、情報の安全な取扱いやプログラミング的思考についての指導プラン等を担当課で作成し、各校で実施していくことで、継続して情報活用能力の向上を図っていきます。</li> </ul>								

## 施策 1 確かな学力の育成

総合評価

B

全国学力・学習状況調査の、全国の正答率を上回る教科数や、小・中学校54校の校種間連携教育達成状況など、あまり進ちよくしていない指標もありますが、全体として進ちよく状況は概ね順調であり、評価も概ね良好です。

学識経験者等  
意見等

- ・これらの指標は、子ども達を育てた結果、現れてくる指標であり、教育環境の整備等の指標と比べると時間がかかるため、1年間で一喜一憂することなく令和7年度に向けて取り組んでいただきたい。
- ・各学校の実態にあった授業改善への指導助言は、担当者を1年ごとに変えるのではなく、継続性を考慮する必要があると考える。
- ・教員によってICTの活用方法に差異が見られ、現在導入している情報端末で、板書や連絡帳を見ることができるようにするなど、学年間だけでも統一的な活用を行うように教育委員会としても助言、指導していただきたい。

【施策】 1 確かな学力の育成

【施策の柱】 (1)学力向上の推進

細 施 策	①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進	担当課	関連指標
		教育指導課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進するため、「川越市小・中学生学力向上プラン」で示す授業スタンダードの定着と、より一層の浸透を図ります。</li> <li>学校指導訪問により教員一人ひとりの指導力向上を図り、学校の教育力向上を目指します。</li> <li>学力向上に係る研修会を充実させ、令和2年度から同4年度までの3カ年計画で授業スタンダード「川越市小・中学生学力向上プラン」を確立し、教員の指導力を向上させます。また、各学校の「川越市小・中学生学力向上プラン」の取組について共有を図ります。</li> <li>市立小・中学校に理科教育に係る支援員（理科実験助手）を配置し、実験・実習の準備や補助を行い、体験的な学習及び個別指導などの充実を図ります。</li> <li>小学校高学年での教科担任制導入を積極的に進められるよう、モデル校研究などを通して、教科担任制の導入を図ります。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>その他の関連指標:指標1</b></p>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校指導訪問 27回</li> <li>学力向上プランに係る研修会 2回（学力向上推進教員研修会）</li> <li>学力向上に係る学校訪問と研究授業の実施 54校（市立小中学校全校）</li> <li>理科実験助手派遣 小学校11校 中学校7校 派遣回数350回</li> <li>教科担任制モデル校 小学校8校 （仙波小 山田小 福原小 南古谷小 大塚小 高階北小 霞ヶ関東小 川越西小）</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業スタンダードの理解や定着による授業改善が進んでいます。</li> <li>学力向上プランに係る研修会を通して各学校の取組を共有しています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川越市小・中学生学力向上プランへの更なる理解や定着及び深化が課題です。</li> <li>学校指導訪問や学力向上に係る学校訪問による各学校の実態に応じた授業改善が必要です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上に係る研修会・授業研究を充実させます。</li> <li>各種調査結果の分析による各学校の実態にあった授業改善への指導助言を行います。</li> </ul>		

細 施 策	②各種調査結果の分析・活用	担当課	関連指標
		教育指導課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校に担当指導主事等を配置し、埼玉県学力・学習状況調査等の分析から、各学校の実態に応じた課題解決を図り、授業改善に活用します。</li> <li>全国学力・学習状況調査と埼玉県学力・学習状況調査において、小中連携校ごとに、実態に合った分析を行います。</li> <li>川越市中学生学力調査の結果分析により、学力向上・指導力向上及び進路指導の充実を図ります。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>その他の関連指標:指標1</b></p>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>分析実施校 54校（市立小中学校全校）</li> <li>川越市中学生学力調査の進路指導への活用 22校（市立中学校全校）</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各調査分析から、授業改善や個に応じた指導への活用が進んでいます。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県から提供される分析シートを効率的に使用して分析を行い、その分析結果の効果的な活用が必要です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校における各種調査分析を進めることによる授業改善への指導助言を行います。</li> <li>川越市中学生学力調査の結果分析を基に学力向上及び進路指導の充実を図ります。</li> </ul>		

【施策】 1 確かな学力の育成

【施策の柱】 (1)学力向上の推進

細 施 策	③少人数指導の推進	担当課	関連指標
		学校管理課・教育指導課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな教育活動を推進するため、オールマイティーチャーを配置し、少人数指導やチーム・ティーチングなどの指導の充実を図ります。</li> <li>オールマイティーチャーによる支援により、児童生徒の学ぶ意欲と自己肯定感を高める、安定感と活力のある学級づくり、自分自身を素直に表現でき、自分や相手と素直に向き合える学級づくりを推進します。</li> </ul> <p style="text-align: right;">その他の関連指標: 指標1</p>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>オールマイティーチャーの配置 12校12名(小学校4校、中学校8校) (国語3名、社会2名、英語2名、数学1名)</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍も考慮した課題を各学校ごとに明確にし、目標を設定することができたので、各学校の課題解決に向けて取り組み、きめ細やかな指導ができています。</li> <li>教員の加配により少人数指導やチームティーチング(共同授業)、少人数学級などの対応が充実し、学力向上や不登校傾向にある児童生徒への支援を、より組織的に対応することができると、成果を上げています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学校の課題の解決を図っていくために、継続的な配置を行う必要があります。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の実態や学校の状況などから、課題を明確にし、より効果的な活用ができるように校長に指導します。</li> <li>学校を訪問して、オールマイティーチャーの教科指導方法等について直接指導するなどして、指導力向上へと繋げます。</li> <li>生徒指導体制の充実や学力向上に向け、学校における効果を検証しながら、オールマイティーチャー配置事業を進めます。</li> </ul>		

細 施 策	④ICT活用の推進	担当課	関連指標
		教育指導課	指標6
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人ひとりの教育的ニーズや学習状況に応じた個別学習を推進します。</li> <li>ICTを活用した双方向型の授業を推進します。</li> <li>児童生徒一人ひとりの考えを共有し、多様な意見にも触れられるようにします。</li> </ul> <p style="text-align: right;">その他の関連指標: 指標1・指標2</p>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題配信用クラウドサービスを通じた課題配信 54校(市立小中学校全校)</li> <li>オンライン会議システムを使用した同時双方向のオンライン学習の実施</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校への登校が制限される非常時でも学びを保障する環境の構築を進めています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの教育的ニーズや学習状況に応じた個別最適化された学習のさらなる充実が必要です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用授業事例集の充実及び各市立学校への周知とICTの効果的な活用に向けた授業改善を図ります。</li> <li>ICTを用いて育むべき児童生徒の資質・能力リストを作成します。</li> </ul>		

【施策】 1 確かな学力の育成

【施策の柱】 (1)学力向上の推進

細 施 策	⑤家庭学習の充実	担当課	関連指標
		教育指導課	指標6
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを日常的・効果的に活用した家庭学習を推進します。また、長期にわたる臨時休業を実施した場合に、家庭にネットワーク環境がなく、かつ経済的に支援が必要な家庭に対して、モバイルWi-Fiルーターを貸与するなどして、家庭でICTを活用した学習を実施できるようにします。</li> <li>各種調査の結果分析から課題を把握し、「川越市小・中学生学力向上プラン」に家庭学習の進め方を掲載し、家庭学習の充実を図るとともに、家庭学習に取り組む意識についても高めていきます。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>その他の関連指標: 指標1・指標2</b></p>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級閉鎖や出席停止時におけるオンラインを活用した学びの保障</li> <li>家庭にネットワーク環境がない児童生徒に対するモバイルWi-Fiルーターの貸与（確保台数548台）</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要時に家庭にネットワーク環境がない児童生徒に対して、通信契約を行ったモバイルWi-Fiルーターを貸与します。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用も含む、統一した家庭学習の方向性を明確化することが必要です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用を含めた家庭学習の実施に向けた方向性を検討し学力向上プランに記載します。</li> </ul>		

【施策の柱】 (2)校種間連携の推進

細 施 策	①幼稚園・保育園・認定こども園・小学校の連携	担当課	関連指標	
		教育指導課	—	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を、学校・園において共有し、それぞれの教育・保育に生かすとともに、就学前の幼児期の育みや学びを小学校に受け継ぎ、次の段階である児童期の学びと育ちに発展させます。そのことで、「小1プロブレム」の解消や学力向上を図ります。</li> <li>川越市幼児教育振興審議会にて園・小学校の連携の在り方や各年の研究実践について話し合い、研究主題の設定や研修会の開催などを通じて、園・小学校の円滑な接続と幼児教育の充実を図ります。</li> <li>園・市立小学校の教職員等へ教育委員会主催の研修会を開催し、幼児教育の充実を図ります。</li> </ul>			
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児教育振興審議会 2回</li> <li>「子どものよりよい成長を考える研修会 オンライン開催（オンデマンド）」</li> <li>幼保小連絡懇談会 オンライン開催6会場（同時双方向）</li> </ul>			
成果実績	項目名（単位）	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	各種連携会議の参加者数	310	事業中止	201
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校・園で幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の共有が進んでいます。</li> <li>新型コロナウイルス感染症拡大防止の中、園・市立小学校の教職員等への研修会を同時双方向やオンデマンドによりオンラインで開催し、幼児教育の充実を図っています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学びの連続性を踏まえた幼保小のどのような取組を行っていくかが課題です。</li> </ul>			
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児期及び小学校の9年間を見通した資質・能力を育成します。</li> <li>幼保小連携モデル校を指定し、研究の成果を周知していきます。</li> <li>「川越市ときも学びのプロセス」を配布し学びの連続性を踏まえた取組を検討します。</li> </ul>			

【施策】 1 確かな学力の育成

【施策の柱】 (2)校種間連携の推進

細 施 策	②小中連携、小中一貫教育の推進	担当課	関連指標
		学校管理課	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校と中学校が連携し「中1ギャップ」の解消を図ります。</li> <li>・各ブロックの小学校と中学校が、小中連携計画書に基づいた連携を図ります。</li> <li>・教科等について9年間の系統性を踏まえた学習を推進します。</li> <li>・小中連携研究委嘱校の研究成果を生かし、教育課程の連携を更に推進させ、小中一貫教育の充実を図ります。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ブロックの小学校と中学校による計画書の作成と取組</li> <li>・校種間連携教育研修会の開催 2回（8月・2月）</li> <li>・全学校からの報告を冊子として取りまとめ、年度末に全校配布</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、思うような交流や活動ができませんでした。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、コロナ禍でもできるような取組を検討していく必要があります。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ブロックの小学校と中学校が、小中連携計画書を作成し、それに基づいた連携を図ります。</li> <li>・ICTを活用するなど、コロナ禍でも交流や活動が推進されるよう、学校に情報提供します。</li> </ul>		

【施策の柱】 (3)グローバル化に対応する教育の推進

細 施 策	①英語指導助手の配置事業の充実	担当課	関連指標
		教育センター	指標4
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、「聞くこと」「話すこと」等の技能を伸ばすため、市立小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に配置されている英語指導助手の活用方法の充実を図ります。</li> <li>・英語指導助手を対象とした研修会や全学校への英語教育推進訪問を実施し、外国語活動・外国語科の指導方法の工夫・改善、児童生徒とのよりよい接し方等について、英語指導助手の資質向上を図ります。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語指導助手配置日数 小学校2,982日 中学校1,333日 高等学校113日 特別支援学校13日</li> <li>・英語指導助手研修会 12回</li> <li>・英語教育推進訪問 48校</li> <li>・英語指導助手配置人数 31名</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語指導助手の配置と英語指導助手研修会については、概ね順調に進捗しています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、中学校・高等学校への配置日数が減少し、また、英語教育推進訪問も一部の学校のみとなりました。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内全校で英語教育推進訪問を実施し、管理職だけでなく外国語科主任等も同席してもらい、より良い英語指導助手とのティーム・ティーチング（共同授業）の在り方について周知を図ります。</li> </ul>		

【施策】 1 確かな学力の育成

【施策の柱】 (3)グローバル化に対応する教育の推進

細 施 策	②小学校・中学校英語教育の充実	担当課	関連指標
		教育センター	指標5
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語教育の小学校中学年での導入や高学年での教科化に伴い、外国語活動・外国語科における授業等の充実・改善を図るため、外国語活動・外国語科研究委員会等において教材・指導資料等を作成し、各学校に配布して活用します。</li> <li>小学校・中学校間における円滑な学びの接続を行うために、市立小・中学校の外国語活動・外国語科の授業を担当する教員等を対象とした研修、授業公開、合同研修等を実施し、教職員の外国語の指導力向上を図ります。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語活動・外国語科研究委員会 6回</li> <li>小・中学校外国語活動・外国語科指導力向上研修会 2回</li> <li>外国語活動・外国語科授業スタンダード研修会 2回</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語活動・外国語科研究委員会で作成した教材・指導資料等を、学校に配布しました。</li> <li>各研修会とも順調に進捗しました。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各研修会の質を向上させ、教職員の外国語の指導力向上を図る必要があります。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語活動・外国語科研究委員会において検討した教材・指導資料等を作成し、各学校に配布して活用を図ります。</li> <li>模擬授業を通して、授業における英語指導助手の効果的な活用方法や児童生徒が英語でやり取りを行う場面での指導法について研修を行い、教職員の外国語の指導力向上を図ります。</li> </ul>		

【施策の柱】 (4)学校教育の情報化の推進

細 施 策	①情報活用能力の育成	担当課	関連指標
		教育指導課	指標6
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の情報活用能力を育成するために、ICTを活用した学習活動の実施に係る指標を設定し、各学校においてICTを活用した学習活動を推進します。</li> <li>児童生徒のプログラミング的思考等の育成を図ります。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>「情報活用能力の育成」のための年間指導計画の改善</li> <li>各市立小・中学校に向けた「ICTを活用した年間指導計画例」の作成・提示</li> <li>「ICTを活用した年間指導計画例」を基に各校で作成した年間指導計画に基づく授業実施54校（市立小中学校全校）</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習においてICT機器を使用する機会を確保することで、ICT機器の基本的な操作に関わるスキルの向上が見られ、学習内容の理解促進が図れています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わかる授業の実践や学力向上のための効果的なICT利活用を更に推進することが課題です。</li> <li>年間指導計画に基づいたプログラミング教育だけでなく、児童生徒の発達段階に応じたプログラミング的思考を更に育成していく必要があります。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用授業事例集の改善及び各市立学校への周知とICTの効果的な活用に向けた授業改善を図ります。（施策1-(1)-④再掲）</li> <li>ICTを用いて育むべき児童生徒の資質・能力リストを作成します。（施策1-(1)-④再掲）</li> <li>情報活用能力（プログラミング的思考を含む）の育成に適した教育課程プランを作成・周知します。</li> </ul>		

【施策】 1 確かな学力の育成

【施策の柱】 (4)学校教育の情報化の推進

細 施 策	②情報セキュリティ・モラルに関する資質・能力の育成	担当課	関連指標
		教育指導課	指標6
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの間違った利用が、個人や社会に経済的・精神的損害を与えることを児童生徒が理解し、正しい情報活用方法を学ぶなど、新たな情報倫理上の課題に対応できる情報セキュリティや情報モラルに関する資質・能力の育成を図ります。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員を対象とした情報セキュリティ・モラルの指導についてのオンライン研修（2回）</li> <li>・学校代表者と保護者を対象とした保護者に対して情報セキュリティ・モラル研修会（2回参加者数114名）</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育で情報モラルについて取り上げています。</li> <li>・アカウント、パスワードの取扱い等についてリーフレットを配布するなど、児童及び保護者に周知を図っています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル教育・情報セキュリティ教育の指導方法等を、明確に示すことが必要です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育情報セキュリティポリシー」に則った指導カリキュラムを作成します。</li> <li>・作成した指導カリキュラムの周知を図り、各校の年間指導計画へ反映させます。</li> <li>・指定研究校による実践事例を資料化し、周知します。</li> </ul>		

細 施 策	③教育の情報化に関する推進体制の充実	担当課	関連指標
		教育指導課	指標6
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを日常的・効果的に活用するため、教員のICT活用指導力の向上に努めるとともに、ICT支援員をはじめとした専門的な知識を有した外部人材を継続的に活用します。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクールサポーター及びICT支援員による訪問支援（延べ430回訪問）</li> <li>・問い合わせ窓口の整備（延べ2290件相談）</li> <li>・ICTの活用に苦手意識を持っている教職員に対する対面によるフォローアップ研修（2回）</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の情報化についての質問や課題への対応等に専門人材を活用しています。</li> <li>・研修等を実施し、個々の教職員のICT活用指導力の向上に取り組んでいます。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続的な学校の状況に合わせた支援体制を整備していく必要があります。</li> <li>・さらなる個々の教職員のICT活用指導力の向上と学校全体のICT活用についての意識の統一を図ることが課題です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員のICTの活用指導力を育成します。（指導力養成研修・管理職研修・校内リーダー養成研修実施）</li> <li>・ICT支援員の配置等、人的支援の充実を図ります。</li> <li>・GIGAスクール運営支援センターの体制を整備します。</li> </ul>		

【施策】 1 確かな学力の育成

【施策の柱】 (4)学校教育の情報化の推進

細 施 策	④ ICT環境の整備	担当課	関連指標
		教育指導課	指標6
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICTを日常的・効果的に活用した学習活動を実現するために、高速大容量の通信ネットワークや情報端末の保守整備、教職員や児童生徒のアカウント管理等、ICT環境を継続的に充実させていきます。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1校につき1回線の1Gbpsベストエフォート（最大限、1秒間に1ギガビットの情報を処理することのできる）回線の敷設 54校（市立小中学校全校）</li> <li>・ GIGAスクールサポーター及びICT支援員の業務委託による通信回線の維持・管理</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1校につき1回線の1Gbpsベストエフォート回線の敷設と通信回線の維持・管理を実施しています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育に必要とされる情報量の更なる増加やセキュリティ強化のための、通信回線の帯域増強と機器の構成改善が課題です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習者用コンピュータやネットワーク機器、大型提示装置など学校に整備された既存のICT機器等の継続した運用・保守を行います。</li> <li>・ 国の計画で示されている学習系ネットワークと校務系ネットワークの分離を必要としないシステム構成も含めた、新規に整備するICT機器やネットワークについて検討します。</li> </ul>		